

遠州地域の旅客の移動

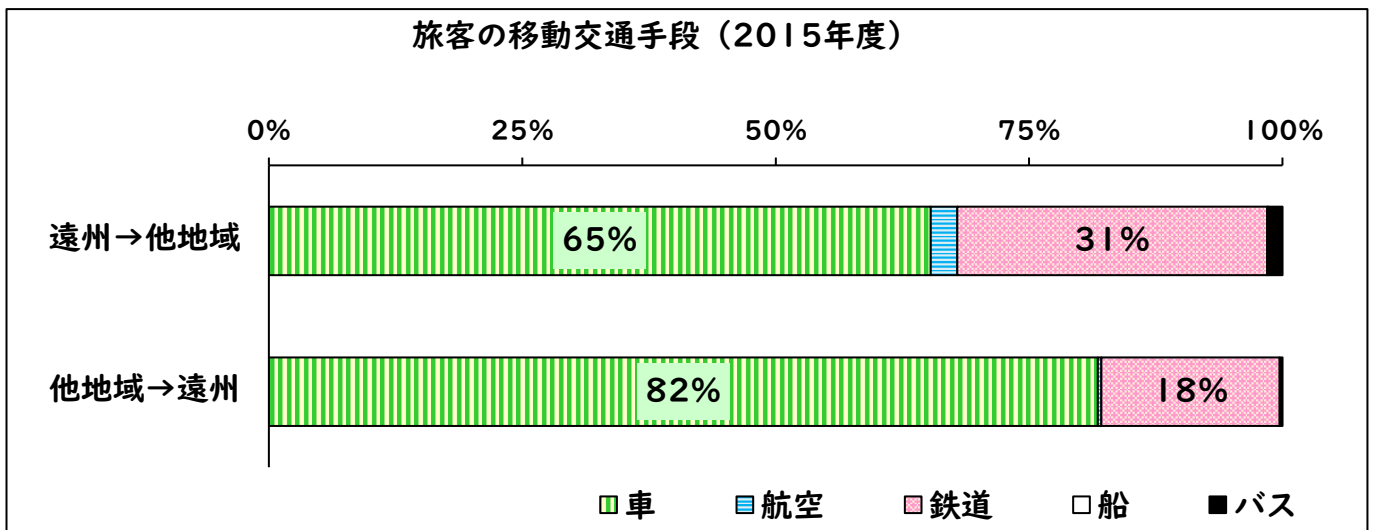
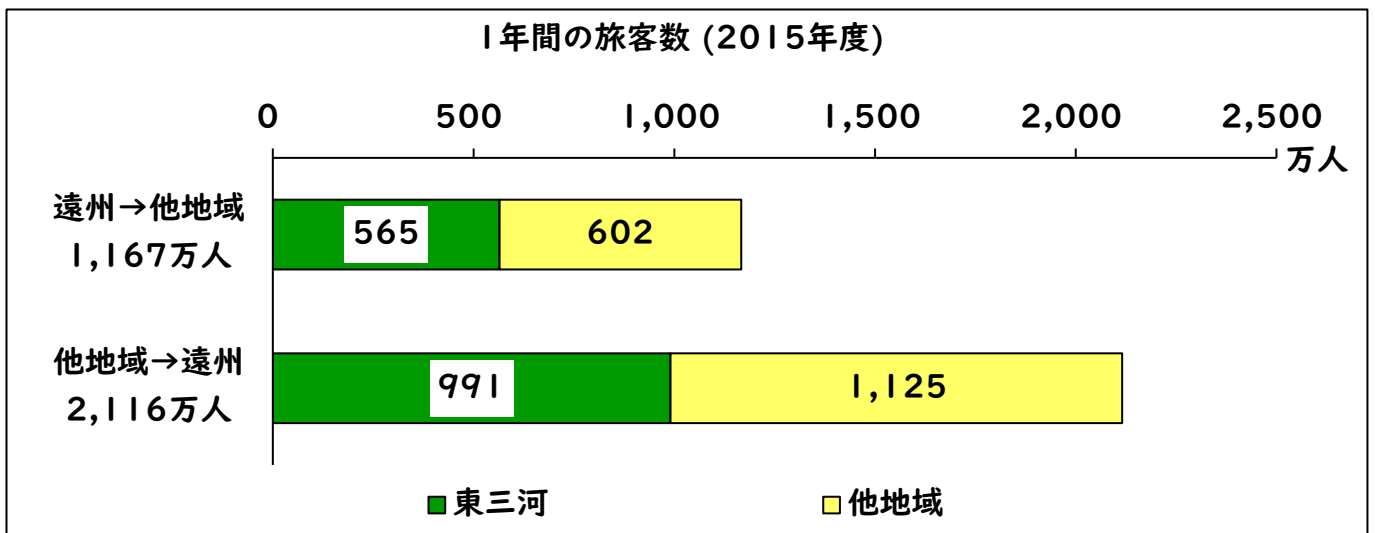
国土交通省が今年公表した「全国幹線旅客純流動調査」をもとに遠州地域の旅客の移動について説明します。この調査では国内の交通機関における旅客の移動といったものを把握できます。ここでいう旅客とは、観光に加え仕事の出張や帰省といった人々の、県を超える移動を指します。通勤や通学および県内での移動は含みません。この調査は1990(平成2)年度に調査を開始して以来、5年に1回の頻度で実施しており、今回の調査は2015年度に実施した調査となります。

◆年間の旅客数と利用交通手段

他地域に住んでいる人が遠州地域を訪れる年間の旅客人数は1,167万人です。そのうち、遠州地域を訪れる最も多い地域は東三河で565万人と全体の約5割に相当します。

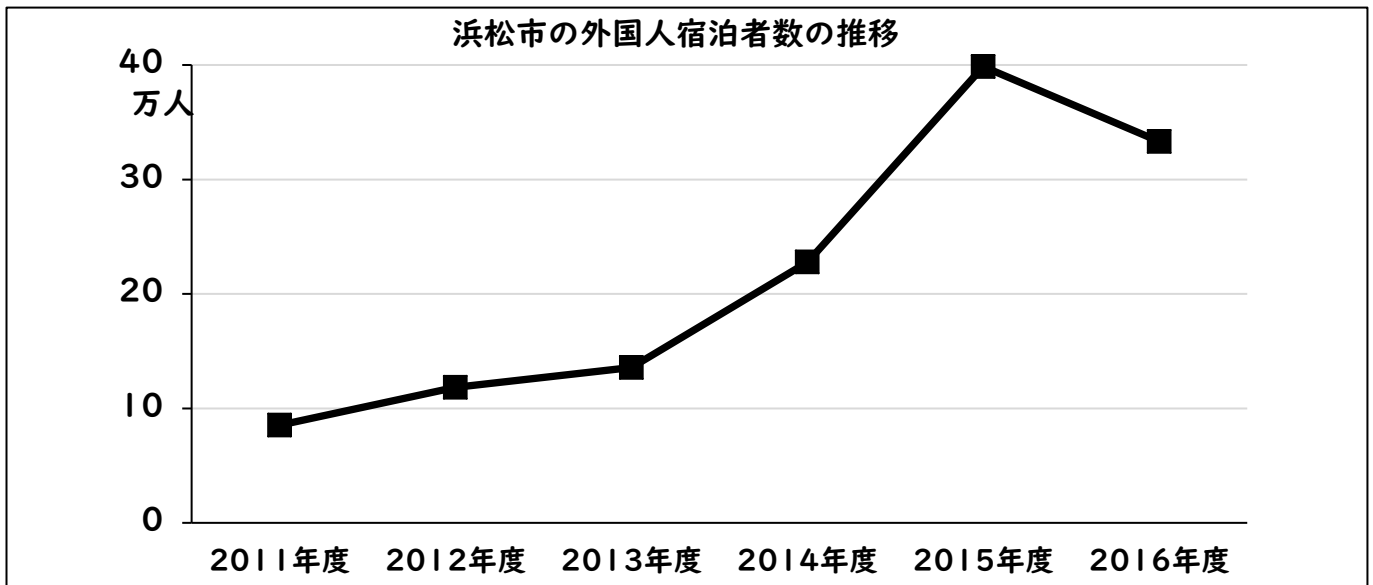
次に、遠州地域の居住者が他地域に出て行く年間の旅客人数は2,116万人です。出て行くよりも来てもらう方が9百万人多くなっています。当地域住民134万人で割った年間の旅行回数では一人あたり年間9回に相当します。当地域からの最も多い目的地は、こちらも出発地と同じで東三河の991万人となります。

利用する交通機関をみると、遠州に来る場合と出ていく場合のどちらにおいても車が多いのですが、出ていく場合では車が7割弱なのに対し、来る場合には8割強と、来る場合の車の利用率の方が高いことが分かります。二番目に多い利用交通手段はいずれも鉄道となっています。



◆浜松市の外国人宿泊者数の推移

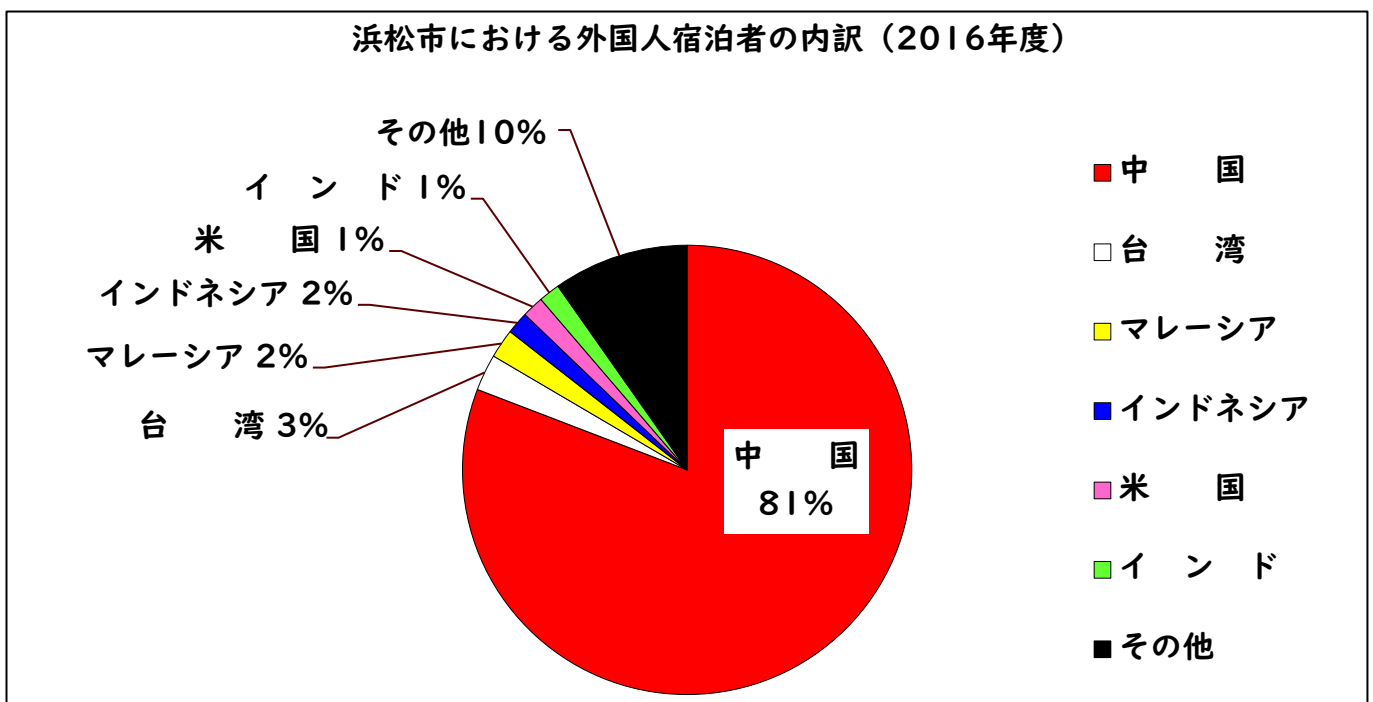
2011年度以降の訪日外国人旅行者の増加に伴い、浜松市の外国人宿泊者数も増加、2015年度には39万人となりました。しかしながら、2016年度は市内外国人宿泊者で最も多い国籍である中国人宿泊者の減少に伴い、前年度比6万人減の33万人となっています。



出所:浜松市資料より

◆浜松市の外国人宿泊者数及び割合(国籍別)

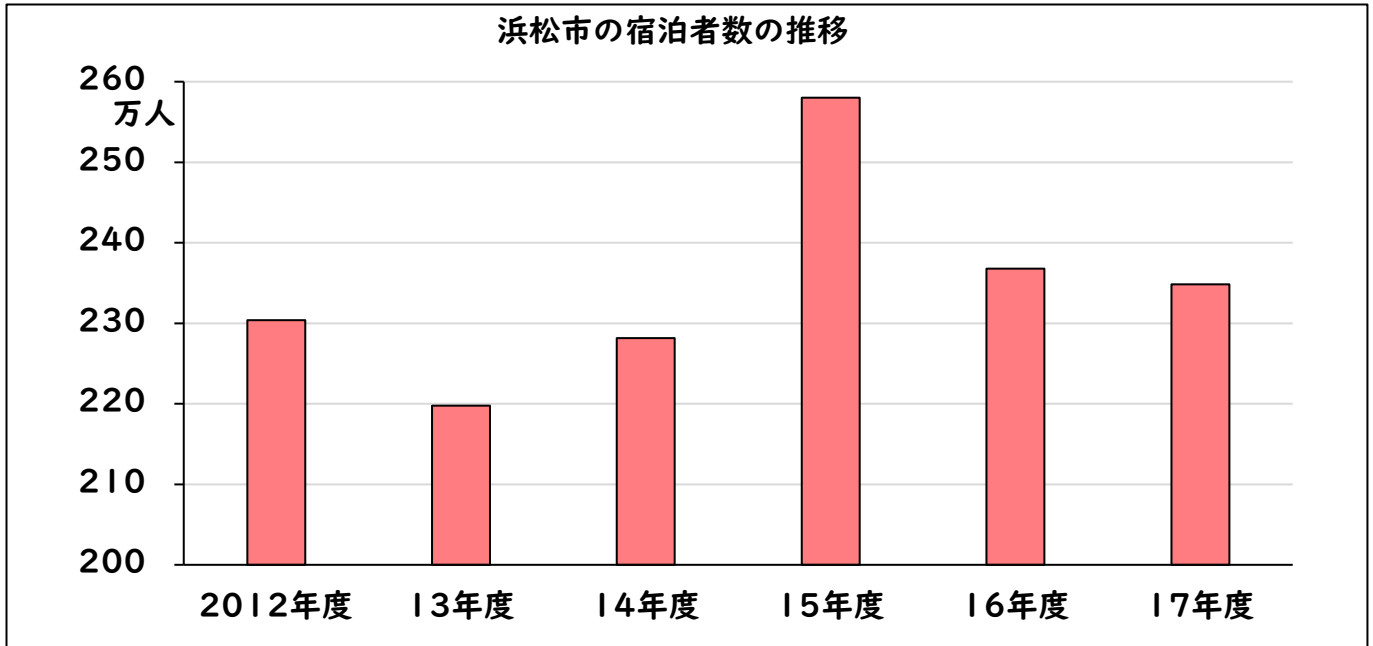
浜松市の外国人宿泊者の国籍割合は、中国が約8割を占めているのが特徴です。その理由は、浜松市がゴールデンルートの中間地に位置していること、かつ宿泊施設が集積しているためゴールデンルートを巡る団体ツアーを多く受け入れることができるためです。一方で、2番目に多い国籍は、台湾の3%と、中国以外の国籍はいずれも5%にも達していない状況です。また、中国の宿泊者についても、観光ではなく宿泊目的との声もよく聞かれることから、中国人にじっくりと観光してもらい、他の国籍の旅行者にもっと来てもらうといった双方の取り組みが必要です。



出所:浜松市資料より

◆浜松市の宿泊者数の推移

2017年1月から12月にかけて、浜松市が舞台の大河ドラマ「おんな城主 直虎」が放映されました。果たして、浜松市では大河ドラマ効果があったのかどうか、宿泊者ベースで検証してみます。静岡県が公表する宿泊者数は年度ベースなので2016年度から2017年度にまたぐことになるのですが(2016年度は2017年1~3月間で放映、2017年度は2017年4~12月間で放映)、2017年度は前年度比で若干の減少となりました。また、2016年度においても2015年度と比べて減少となりました。宿泊者数のみで検証すると、浜松市では効果が限定的だったと言えなくもないですが、2014年度以前との比較では増えていることが分かります。また、県全体での2017年度の宿泊者数は増加となっているため、断定はできませんが、県全体では大河ドラマ効果があったと捉えることもできます。



宿泊者数の推移

単位：万人

	2012年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
浜松市	230	220	228	258	237	235
西北遠 + 中東遠	341	333	345	385	368.1	368.3
静岡県	1,790	1,822	1,881	1,966	1,943	1,980
大河ドラマの放映期間					2017年 1~3月の 3ヵ月	2017年 4~12月の 9ヵ月

出所：静岡県資料より